

1 事業概要

実施年度	令和4年度	管轄振興局	東牟婁振興局
団体名	特定非営利活動法人和歌山芸術文化支援協会		
事業名	「森のちからⅩⅢ・森の聲」		

2 実施状況

事業目的	歴史と文化を育んできた熊野の豊かな森に芸術家を招き、現地制作により、森の魅力を新しい視点から発見し、県内外からの参加者と地元の住民との交流事業を通して、熊野の森のすばらしさを発信していくこと。		
参加者数	348 人	うち県内在住者	338 人
実施概要	・森の中での芸術作品の公開制作(古座川町平井、北大演習林) ・アート・ワークショップ(“「」もしも自分の体が森だったら”田並劇場) ・学校訪問ワークショップ(アーティストによる森林体験授業、明神中学校) ・アートツアー&語り場(公開制作作品の解説と森の話合い、古座川町)		
事業効果	地域の人や子供たちに、森のもつ様々な魅力をアーティストの創造性や独自性のある豊かな感性で伝えるとともに、森を再発見していただき併せて改めて森を感じる感性を育てる。		
実施の様子 (写真)	(別添のとおり)		

令和4年度公募事業 N P O和歌山芸術文化支援協会の取り組み

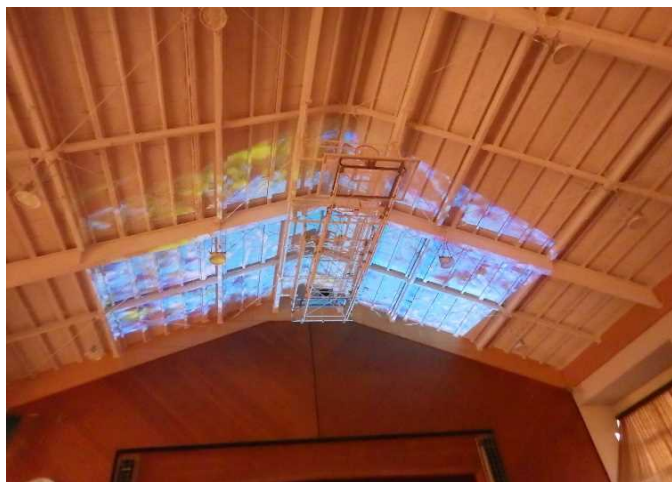
①ピアノの演奏（初めは演者を含めた映像、森へと誘う音楽）



②演奏者（森の中から聞こえてくる調べ）



③体育館の天井にも森の映像（川の中から樹林を撮影、愛犬ダイズの冒険）



④体育館全体を森の映像と音楽が埋め尽くす



⑤吉野氏の指導で中学生が布を広げ、揺らす（指示され子供たちが下に座る）



事前に吉野氏から子供たちに森の豊かな水について話があり。様々に形を変え循環する水。一滴が大河となる

⑥布が川だと気がついた子供たちが、みんなで飛び込んでしゃぐ



⑦懐中電灯が配られ電気が消され、誰かが揺れる
布を下から照らし始める。みんながそれを まねる。
はしゃぐ子供ら



⑧ 同左



⑨明るくなった後、布を切り裂く吉野氏（左橋）



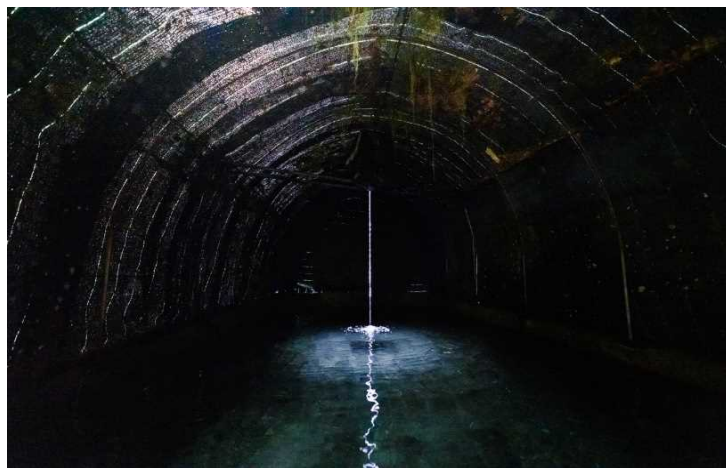
⑩二人で布を動かす（風になり川になる）



⑪吉野氏による公開制作作品「森の聲」（北大演習林
内の作業小屋で制作、水の中に森にあるものを置いて
いる）



⑫同左「水による記憶時計装置」（黒いビニルハウス
内で制作、天井から一筋の細い水流が落下し続けてお
り、それを暗闇の中でライトアップしている）



ワークショップ「もしも自分が森だったら」

⑬自分の等身大の輪郭を模造紙に書き写す



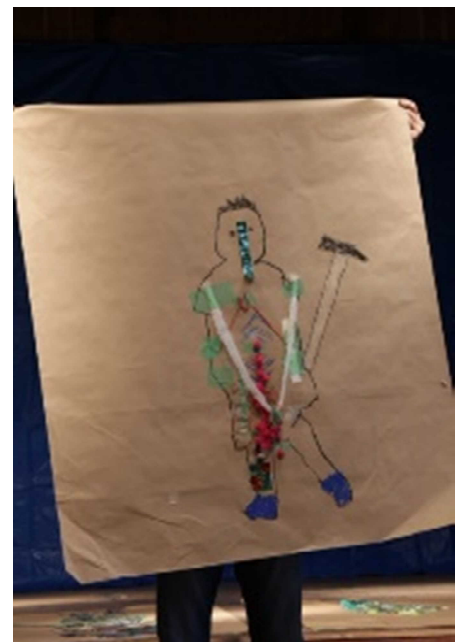
⑭輪郭の中を思い思いに装飾し森を作り上げる



⑮川や月や樹木を描く(マジック、クレヨン等)



⑯ 完成



⑰あなたの森は「何の森？」で発表



⑱「森のかたりば」で森への想いをぶつけあう

